

熊本地震 ボランティア日記(7)

8月号

8月分の報告をします。

8月1日(月) 益城町(小林、佐藤、武方)

8月2日(火) 益城町(新見)

8月3日(水) 南阿蘇村(新見)

(敬称は省略)

8月9日(火) 益城町(武方)

(赤字は夢追塾ではなく

8月10日(水) 益城町(池上、坂本、八尋、武方)

山歩きロッキーズのメンバー)

8月1日(月) 益城町(小林、佐藤、武方)

快晴 男7人+女5人

作業内容:倒壊した倉庫のガレキ処理(分別、積み込み、集積場まで運搬)

本日は小林さんと佐藤さんが参加しました。
初体験で心配そうなので、女性が多いグループに半ば強引に入り込みました。
マッチングの要求は10人でしたが、12人のグループとなりました。
倒壊している倉庫のガレキを分別して軽四トラックに積み込み、集積場まで運搬する作業です。
ガレキ上の作業で、彼女たちの釘の踏み抜きが心配でした。



オリエンテーションを受ける2人、話は聞かずにカメラを意識しています



今日は12人のグループです。初体験の女性が2人いるので、青木リーダーのグループに強引に入り込みました。他にも女性がいたので安心した様子の小林さんと佐藤さん



作業を終えて、
ボランティアセンターにて



帰る前に証拠写真を！

8月2日(火) 益城町(新見)

はれ 男4人

3

- (1) 軽トラ2台で老夫婦世帯へ。被災した家具類を集積場へ運搬。短時間で終了。
- (2) 別の現場へ応援に向かう。解体中の家屋から家具類を運び出し、分別して集積場へ運搬。布団類を運搬して戻ったところで作業を中断して一旦センターへ戻る。業者が重機で解体している家屋での作業は危険が伴うとの判断から、中止することに。
- (3) 前日にセンターまで持ち帰って、軽トラに積んだままになっていた冷蔵庫数台を、集積場へ運搬。
- (4) 同様に別の廃材を積んだ軽トラを運転して、廃棄物処理場へ運搬。



築城基地の戦闘機整備士

新見

福岡市からきた29歳。
転職の合間の有休消化中。
翌日も南阿蘇で再会

地元益城町の被災者。
全壊した家は解体待ちで、する
こともないのでボランティアに
参加してみたとのこと

8月3日(水) 南阿蘇村(新見)

はれのち曇り 男2人、のち24人



前日移動してきて車中泊
した南阿蘇の道の駅。
朝もやのかかる高原は、
下界より4℃ぐらい気温が
低く、寒くて目が覚めたほど。

- (1) 最初のマッチングで、前日も益城町で一緒だった青年と組んで、高齢婦人宅の廃棄物運搬。簡単に終わったので、別のグループの応援に向かう。
- (2) 土砂崩れのあった山すそに位置する邸宅で、溝に流れ込んだ大量の土砂をスコップで掻き出し土嚢袋につめては積んでいく、という肉体労働。福大野球部の15人を含む総勢24人がかりで、泥まみれになりながら奮闘するも、あまりの量の多さに、完了することができず、翌日持ち越しとなった。



震災で休業を余儀なくされた温泉が多い中、営業している公的施設は復興料金200円で利用することができ、泥と汗と疲れを洗い流して帰途につきました。

8月9日(火) 益城町(武方)

快晴 男5人+女4人 ⇒ 応援要請で 20人程度に

作業内容:倒壊した民家のガレキの分別処理(分別、積み込み、集積場まで運搬)

広い敷地にガレキの山が数か所。依頼主のおじさんが日陰で待っていました。ガレキの一角に簡易な祭壇があり、お花が手向けられています。長男のお嫁さんが亡くなったとのこと。おじさんも怪我をし、1ヶ月程入院治療していたとのことでした。

まず、木屑と瓦の山から取り掛かりましたが、作業量が多いので応援を要請。しかし完了せず今後継続となりました。

敵はこの猛暑で、15分程度の作業で休憩をいれ、冷水で頭や首筋を冷やしながらの作業でした。



8:30 ならんで受付を待ちます



マッチング会場の様子

夏休みに入り、親子連れが目立ちました。同じグループに大阪から来たご夫婦と高校生ぐらいの娘さんがいました。どこから来たのか聞かれたので「北九州から」と答え、「地元の方ですね」と言われ、多少不本意ながらも「まあそうですね」と言っていました。遠方から支援に来ている方も大変多く、彼らから見ると隣の県は地元なのです。

快晴 男14人+女6人

作業内容:倒壊した民家のガレキの分別処理(分別、積み込み、集積場まで運搬)

今日は坂本さん、池上さん、八尋さんが参加しました。
ボランティア最後の日なので、厳しいことを承知で敢て昨日と同じ民家に行きました。
今日も猛暑です。倉庫脇に温度計あり、日陰で41℃、日向で46℃を示していました。
やはり女性陣の中には、体調不良でリタイヤする人もいましたが、大事には至らなかったようです。
ボランティアは「無理なくできる範囲」で良いのです。



オリエンテーションを受ける
坂本さんと八尋さん



20人のグループが決まり、リーダーは昨日と
同じ、横浜から来ている50代の男性(9:06)



作業終了後、ボランティアセンターにて(15:57)
今日も時間いっぱい作業しました お疲れ様でした。

4月25日から始めたボランティア活動は、3か月半で延べ27回(武方)、延べ14回(新見)となりました。当初、熊本市から活動を始め、その後南阿蘇村、西原村、益城町と、比較的被害の大きかった地域で支援活動をしてきました。被災者からの依頼内容は、足の踏み場もないほど散乱した家屋内の片付け、壊れた家具・家電類の運び出し、倒壊したブロック塀の片付け、落下した瓦や割れたガラスの分別収集、避難所の片付け・清掃、壊れそうな法面の防護や石積擁壁の補強、倒壊家屋のガレキの分別収集と集積場までの運搬 などなど、多岐にわたりました。

今回のボランティアで感じたことがいくつかありますが、その中の二つを記してみます。

一つ目は、男女を問わず若者(20代~40代)が多いことです。そして彼ら(彼女ら)は一様にしっかりしています。朝のマッチングで作業単位ごとにグループができ、グループ毎にリーダーを1名決めますが、殆どの場合若者が名乗り出ます。リーダーは結構大変で、現地で依頼主との対応、作業内容や作業手順の指示、メンバーへの気遣いや体調確認、時間管理と休憩等の指示、借用した道具類の数量確認などを行います。5日程度の休暇を取って、関東・関西方面から空路で往復している若者にも多数出合いました。九州人として頭が下がる思いでした。

二つ目は、地域力の必要性を感じたことです。自治会等の地域組織がその地域の被災状況を把握して被災者のニーズを掘り起こしていれば、ボランティアも大変効率よく作業ができ、所定の時間をフルに使った作業が出来ます。このような地域では通常的生活を取り戻すのも早いと思います。

ところが地域組織が機能していないと、ニーズのある個人宅に数人で行き、1時間程度の作業で帰ることも多く、数日後に隣の宅からの依頼でまた数人が作業に向かうようなこととなります。日頃から地域内での良好なコミュニケーションが保たれ、有事には団結できる、このような地域造りが必要だと強く感じた次第です。

今まで土・日・祭日返上で動いてきたボランティアセンターも12日から盆休に入るようです。

盆休以降は、各ボランティアセンターの受入れも縮小され、「金・土・日」のみの受入れになります。

他の日は、スタッフが地域を廻ってニーズの掘り起こしをします。武方も週末はこちらでの活動が多いため、4月25日から始めたボランティアも8月10日の活動で一応終了としました。

今後について、どのような支援が出来るか、また考えてみたいと思います。

また、ボランティア参加の呼びかけに、男性4人、女性7人の方に参加頂きました。お礼を申し上げます。ボランティア日記はこれをもって終わりとします。 武方 秀俊